

様式第3号(第12条関係)

開 催 記 録

名 称	令和7年度第1回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和7年5月21日(水) 午後 2時00分から 午後 4時30分まで
開 催 場 所	吉川市中央公民館 202会議室
出席委員氏名	菊池委員、飯島委員、辻委員、篠田委員(途中退席)、阿部委員、山本委員、森田委員、笠井委員、小林委員
欠席委員氏名	小山委員
担当課職員職氏名	中原市長 荒川都市建設部長 堀江副部長兼河川下水道課長 曾我下水道担当副主幹 小木曾主査 倉田総合治水担当副主幹
会議次第と会議の公開又は非公開の別	次第：別添参照 公開
傍聴者の数	1名
非公開の理由	
資料の名称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	阿部委員、山本委員
その他の必要事項	
内 容	<p>■開会</p> <p>■議事</p> <p>○下水道及び農業集落排水施設の視察 議事を一時休会とし、下記の3施設を視察する。</p> <p>①共保雨水ポンプ場 ②吉川美南駅東ロマンホールポンプ ③八子新田・鍋小路地区処理施設(八鍋クリーンセンター)</p> <p>【質疑応答】 特になし</p>

○下水道事業及び農業集落排水事業の現状と課題について

事務局より下水道事業及び農業集落排水事業の現状と課題について説明

【質疑応答】

(菊池会長から補足説明)

菊池会長：吉川市の下水道事業の経営状況を示す数字がいいといっても、下水道事業自体は全国的に厳しい状況である。なぜならば、下水道事業は、水道事業と比べて、圧倒的にその土木工事費が高くなってしまふ。水道は圧力で水を送ることができるが、下水道は自然流下で流れていくため、掘削量が多くなり、水道事業の工事費に比べて下水道事業の工事費は3倍から4倍になる。費用が水道の3～4倍になっているのに関わらず、全国的に下水道料金の方が水道料金より安い状況である。したがって、収支の不足分を一般会計の繰り入れで賄われている。水道事業は、現時点で賄えているが、今後、老朽化が進み、設備の更新投資をする必要があり、投資費用は増加する一方、水量は減少している状況である。これが10年後、20年後に、下水道事業も同じような状況になることが予測される。この収支不足を一般会計で負担しなくてはならないが、一般会計でも負担し続けることは困難であるので、全国的に非常に厳しい状態になっている。そういう状況にあるということを皆さんに理解していただきたい。下水道事業は、赤字となることが想定されていた事業である。だから、吉川市の経営状況がいいのは、新しいからであり、今後は、厳しい状況になっていくということは間違いない。人口も区画整理事業によって若干増えるという予測はされているが、人口が増えても水量は減る。東京では、特に顕著な状況である。東京都ではまだ人口が増えているが、水量は各家庭の節水機器が普及しているので、過去15年ぐらい一貫して減っている。当初の下水道事業の制度設計では、人口減少が起きるとは誰も思っておらず、多額の投資をしても、将来的に人口が増加し、将来世代が負担してくれるのだらうと思って、始まった事業だと言える。人口が減少し、使用料収入が減るため、他の自治体でも、経営戦略の改定において、料金の値上げを検討している。また、先日、八潮市で起きた事故により、下水道施設の老朽化が顕在化し、今後、下水道施設の更新投資が始まるのは間違いない。しかしながら、それを賄う財源としての収入が減少しているというのが日本の現状で

ある。だからそこを踏まえて、これからその将来にわたってどうやって下水道を維持していくかを真剣に考えないといけない時代になった。今ではなく、自分達の子供や孫の世代に下水道を維持するためにはどうするかということを今考えないといけない。そのために料金の値上げもやっていく必要があるが、料金の値上げもカンフル剤でしかないのが現状である。将来的に収入が減少し続け、際限ない値上げができるはずがないとすれば、いかに事業を縮小していくのかということが、国の会議でも話し合われている。また、農業集落排水事業については、そもそも人口密集地ではないところに管渠整備をしたので、今現在でもかなり厳しい状況になっている。全国的に農業集落排水事業は多くの地域で実施されているが、個別浄化槽への切り替えを実施し始めた地域もある。もちろん、感情や導入までの経緯とかもあるけれど、そこを視野に入れられない限り将来世代に対して下水道が維持できるかどうかを今考えないと、今さえよければでは済まされない問題だとかということが、全国に行ってもひしひしと強く感じる。したがって、吉川市公共下水道は新しいので、しばし猶予はあるが、早いか遅いかだけの話だと考えていただいて、今のうちに早めに手を打った方がよい。20年後、30年後の将来を考えて、経営戦略を策定することを意識していただきたい。その将来を子供と孫のためにどうするかという視点を強く考えていただいて、今後議論していただきたいと考えている。

(各委員からの意見は特になし)

(欠席委員からの意見紹介)

事務局：本日、所用により欠席となった小山副会長から意見が出ております。

- ①農業集落排水事業については、類似団体と比較して経営状況が悪いことが分かったので、より規模を小規模にすることや、経営状況改善に向け対応が必要でないか。
- ②物価高騰については、近年急激に物価が高騰しているので経営戦略の改定に合わせて、物価の上昇の状況も反映経営戦略も反映すべきではないか。
- ③施設の維持管理については、八潮市での事故を踏まえ、引き続き、点検作業とかが必要ではないか。

というご意見がありました。

■その他

○今後のスケジュールを事務局より説明。

- ・令和7年度の全体スケジュールを説明（全7回開催を予定）
- ・令和7年度第2回及び第3回吉川市下水道事業審議会について
第2回：令和7年7月7日（月） 午後2時30分～
市民交流センターおあしす
第3回：令和7年8月4日（月） 午後2時～
吉川市役所

○八潮市道路陥没事故関連について（報告）

八潮市の事故を受けて、吉川市で実施した点検等について

- ・マンホール内の点検調査を実施
- ・道路の路面調査を実施

（実施結果）

- ・マンホールについては特に異常なし。
- ・下水道管ルート上の路面に、傷みが数か所あった。

⇒下水道管渠の浅い所については、開削し、状況を確認した結果、
下水道管の影響によるものではなかった。

⇒下水道管渠の深いところについては、6月上旬にテレビカメラ調査を実施する予定。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和7年6月17日

署名委員 阿部 義行（自署）

署名委員 山本 博暉（自署）